

## Thematic Apperception Test（主題統覚検査）解釈の実際 I

—— 要求－圧力分析，かかわり分析，防衛機制マニュアル，  
社会的認知と対象関係尺度，中核葛藤関係テーマ法の観点から ——

## Illustrations Concerning Interpretation of Thematic Apperception Test I

— From the Perspectives of Need-Press Analysis, Kakawari Analysis, Defense Mechanism Manual, Social Cognition and Object Relations Scale, and Method of Core Conflictual Relationship Theme —

西河 正行 \*

Masayuki NISHIKAWA

### <キーワード>

TAT，要求－圧力分析，かかわり分析，防衛機制マニュアル，  
社会的認知と対象関係尺度，中核葛藤関係テーマ法

### <要 約>

診断的理解と治療的理解（山本,1992;1996）の両者をつなぐ道を探索するため，まず本稿では，西河(2008)，西河(2009)の整理の上に，Murrayの要求－圧力分析，山本のかかわり分析，Cramerの防衛機制マニュアル（以下，DMMと略す），Westenの社会的認知と対象関係尺度（以下，SCORSと略す），Luborskyの中核葛藤関係テーマ法（以下，CCRT法と略す）によるTAT解釈の実際を，山本（1992）の事例を取り上げ提示した。

## 1. はじめに

筆者は、西河 (2008)<sup>(1)</sup> で、Murray の要求－圧力分析、Bellakの自我心理学的理論、CramerのDDM、WestenのSCORS、LuborskyのCCRT法を取り上げ、TATの力動的理解について整理をした。また、西河 (2009)<sup>(2)</sup> において、Cramer (1996)<sup>(3)</sup> のTAT理論の観点から、Murrayの原法、山本のかかわり分析、鈴木の実施法を取り上げ、TATにおける施行法の意義について批判的に検討した。本稿では、紙幅の関係で、まず、要求－圧力分析、かかわり分析、DDM、SCORS、CCRT法による解釈の実際を提示し、それぞれのTAT理解の特徴について明らかにする。その上で、次稿においてそれぞれの解釈法をつなぐ、特に診断的理解と治療は理解 (山本, 1992 ; 1996)<sup>(4, 5)</sup> の両者をつなぐ道を探索したい。

Cramer (1996) は、「物語を解釈する人」のナラティブを特にパースペクティブと呼び、TAT解釈に当たってナラティブとパースペクティブの概念を区別したが、ここで取り上げる「要求－圧力分析」「防衛機制」「社会的認知と対象関係」「かかわり分析」などはいずれも解釈者のパースペクティブである。

TAT物語 (語り手のナラティブ) が意味を持つかどうかは、解釈者のパースペクティブに依存する。Cramerのあげる例のように、「綱にすがりつくロッククライマー」として描かれた図版17BMを、ある人がクライマーに死のイメージを見て、かつ「しかしながら彼は恐れていない」と加えるとする。この簡単な追加は、解釈者が防衛機制に焦点づけるなら意味があるが、達成動機付けであればこの付加は重要ではないことになる。

この観点から、分析と解釈は区別される。安香 (1992)<sup>(6)</sup> はスタインを引用し、「意味あるデータを選び出すこと (分析) とデータに意味を付与すること (解釈) はどちらも、その心理学者がどういう理論的立場を採るかによって決定される」と分析と解釈の異同を明らかにしたが、分析は解釈者のパースペクティブによりデータを選び出すことであり、解釈は語り手の物語の筋と解釈者の

パースペクティブとの間の「対話」 (相互作用) の結果である。しかも、西河 (2009) で種々のTAT施行法の実際に見たように、TAT物語 (ナラティブ) は所与のものではなく、検査者の施行法 (パースペクティブ) に基づいて生み出されたものである。

さて、Cramerによれば、TAT物語の解釈は、「語り手のナラティブは解釈者のナラティブの具体化に影響を与え、次には変容されて、解釈者のナラティブ (筆者注 ; パースペクティブ) は物語の理解に使われ、語り手のナラティブに意味を与える」相互作用の結果である。つまり、TAT解釈は、解釈者がどのパースペクティブに依拠するかにより見えてくるものが異なる。人は単一の物語の筋で生きているわけではないので、複数のパースペクティブがあるほど物語は豊かに多様に解釈される。また、Cramerは、TAT解釈の妥当性、「良い」解釈の基準は、解釈が今は知られていない語り手の人生の他の側面を照らし出すか、現在の謎を明確化するか、また、解釈が偽りかどうかを見るために、将来に目を向けなければならない、実証は常に前にあり後ろにはない、とする。

通常、臨床家は閲読分析により、語られた物語に繰り返される、語り手の物語の筋に焦点を当てることが多い。つまり、臨床家は単一のパースペクティブによらずに、物語に生じるものとしての物語の筋を発見しようとする傾向があるので、筆者は、臨床家こそTAT理解に持ち込む自らのパースペクティブに自覚的でなければならないと考える。

ところで、山本 (1992) は、クライアント理解に2つの視点を区別した。一つは、クライアントを対象物として、その病態、健康度、人格の力動的構造、さらに家族関係の構造の中の位置や関係の仕方などを把握する診断的理解であり、いまひとつはクライアント自身の独自の現象学的心的内界を共感することにより、クライアント自身がどのように自己を受けとめ自分の置かれた状況をどのように引き受けているかを理解しようとする治療的理解である。両者の区別は、「見る者がどちらの側に視点を置いて、現象学的接近法を適用す

るか」による。前者は現象学的接近法を取る視点があくまでも見る側に置かれ、見られる者を完全に対象とする。後者は現象学的接近法を取る視点が見られる者の側に置かれ、見る者は見られる者にあらわれてくるものを、見られる者と共にみつめようとする立場を取る。

ちなみに、具体的にかかわり分析で記述される「基本のかかわり像」は次のようである。①気分（安定感、明るさ、充実感、けだるさ、不全感、無力感など）、②外界の状況に対するかかわり（a. 外界の状況全般をどうとらえ、どう対処しているか、b. 重要な人物をどうとらえ、どうかかわっているか、c. 世間一般をどうとらえ、どう対処しているか）、③自己の内界状況に対するかかわり（a. 自分自身に対して、b. 自分の中の強い欲求に対して、c. 自分の中の様々の自分に対して）、④ものごとへの対処様式（a. 生きる支えになっている価値観、b. 目標、目的、理想、c. ライフスタイル）、⑤過去、現在、未来への志向（山本、1992；Pp.163-164）。

山本の分類で言えば、本稿で取り上げる要求－圧力分析、DDM、SCORS、CCRT法はいずれも診断的理解の観点であり、かかわり分析だけが治療的理解の観点となる。山本（1992）は、要求－圧力分析と「かかわり」分析の本質的違いを検討し次のように述べた。前者は、「人間をある力作用の集合を構成することによってとらえようとしている。それは、力作用の集合『にすぎない』人間像であり、『だれでもいい』主体不在の人間像をこしらえている」。後者は、「その人自身（主体）が現実状況（状況）にどのようにとりくんでいるか、そのとりくみ方に目を向けてとりだした人間像である」。そして、「かかわり」分析こそが治療的理解にもとづく人格理解の中核であるとした（Pp.34-35）。

しかし、山本（1992）は「心理臨床の場において・・・この2つの視点を同時に働かせながら、クライアントの心的内面世界を共にしながら、一方で、クライアントと治療者及び両者の関係をメタレベルで対象化している」（p.15）と述べているものの、両者の統合については触れていない。わ

ずかに、「かかわり分析がとり上げる問題は、欲求－圧力の力学的結合関係だけをとりだすという欲求－圧力図式に対して（けっして否定するのではなく、取り込む意味で）、行動の主体が自己の中にある欲求と外界から作用してくる圧力にどのような形でかかわりをもっているかであり、そのかかわりのパターンをとらえることに目をむけたところに新しさがある」（p.50）と述べる中で、「けっして否定するのではなく、取り込む意味で」と言及しているに過ぎない。

以上、筆者は、本稿において素材を提供し、次稿において診断的理解と治療的理解（山本、1992；1996）の両者をつなぐ道の可能性について考えてみたい。そこで、本稿では、まず、一つの事例についてそれぞれの観点からの分析と解釈を示し、それぞれの解釈法の違いを明確に示したい。取り上げる事例は、山本（1992）の「F君の事例」である。はじめに、事例を提示し、その後で図版1から10までについて各解釈の実際を示す。

なお、西河（2009）で指摘したように、TAT物語は検査者の施行法（パースペクティブ）に基づいて生み出されたものであり、厳密に言えば同じ枠組みで比較はできない。しかし、本稿では各観点の比較のためにあえて山本の施行法によって得られたTAT物語を使用する。また、各図版のかかわり分析の解釈は筆者のもの、「3.各観点からの事例理解のまとめ」に示すかかわり分析解釈は山本のものである。

要求－圧力分析については、辻（1959）<sup>(7)</sup>、辻・藤戸（1959）<sup>(8)</sup>に準じて行う。彼らの、スタインを中心にした分析項目に従い、主人公、脇役、主人公の要求、脇役から圧力、主人公の感情状態、行動および結末に分けて結果を整理する。要求と圧力の分類については、木村（2001）<sup>(9)</sup>を使用した。

## 2. F君の事例

事例の概要について以下に簡単に記載する。詳細は山本（1992）を参照されたい。

F君は大学3年生で、心臓発作を起こした後、いくつかの医療機関で、強迫神経症、ヒステリー

性、発作性頻拍症などと診断された。大学2年で留年、大学3年進級後ほとんど授業に出ておらず、心臓発作の後に休学届けを出した。人に頼まれるとイヤと言えない、友人に逆らえないなど、友人関係に困難がある。カウンセリング3回目にTATが施行され、1ヵ月後にフィードバック面接が実施された。

図版1 ええ、母親にバイオリンを弾けといわれて、ええ、いやがっています。でも、しかたがないから、ええ、弾こうか弾くまいか思っています。それで……結局は自分で練習をはじめます。……それでおし……おわりです。……（何か他にありますか）……後は、あ、バイオリンを弾いていて難しい場面にぶつかって、ええ、どうしたらいいかと自分であれこれ考えて、考えて創意工夫していると思われます。（うん）……（どうしたらいいかな……）で、だれかに手ほどきをもっと受けたいという気持ちです。……あとは、何か曲を作りたいくて、それで、これからどういうふうに曲を作っていこうか考えているところです。で、結局のところ、何も思いうかばずに終わってしまうと、で、いやでやめてしまうと、やめちゃう（やめちゃうのね）……以上です。

図版2 5” ……学校帰りの学生の女性が、ええ、だれかを待っているところです。でなかなか来ないんですけど。ええ、別にイライラすることもなく待っている。それで……来る相手の人は、自分のフィアンセぐらいの人で、むしろ、あの、心がワクワクしているほうです。で、その相手の人というのは、結局来て、そして、その場を2人で去って行ったように見えるように思えます。（どれがフィアンセ）え、これから来て、別にここに登場していない。……その人が来て2人で楽しそうにこの場から行ってしまうと、そう見えます。……（その人のこと）ええ、この女の人……こっちは関係ない……（ハイ）……（こっちは関係ないの）ただ背景です。（はい、はい）

図版3 BM 5” ……酔い……お酒を飲んで酔いつぶれてしまつて意識モウロウとしてしまつて……泥酔状態になっているところで……で、自分でもう自分のことが分からない……といった状態です。……それで、この後どうなるのかっていうのは、ただお酒のさめたころ目をさまして……それで1人でトボトボと家路に向

かって行く……というふうに考えます。（どこで泥酔しているわけなの）……ああ、なんとなく、この絵のベンチで……これが後にある、椅子のようなのが、ベンチに見えまして、で、ここが街路のように見えまして、そこで、うつぶしているという状態が……そのようにみうけられます。……で以上です。（何歳くらいの人ですか）そうね……25,6歳の女性に思われます。……（女性なのね）はい……。

図版4 2” ……え、これは、ええ、まず、この2人は夫婦です。それで夫が、これから戦場へ向かおうとしているところを妻がひきとめようとしています。でも、それを振りきって夫は行ってしまおうっていうふうに……それで妻は、心配してなんとか引きとめようとするんですけど、戦わなくちゃいけないと言って、男の人は出て行こうというふうに見うけられます。で、結局のところ、無事にこの男の人は、また帰ってきて、幸福にまた2人で暮していきます。（無事に帰ってくるのね）それで暮していくというふうに思われます……。以上です。

図版5 6” ……ええ、ここはこの御婦人の娘さんか誰かの部屋で……それで、その人が呼んで「どうしたの」とドアを開けて入ってきた場面です。……でそれで、用、その言づてとか用が終わって、まあこの人はごく普通に御自分の部屋にもどっていってしまうというふうに考えます。（こっちは誰がいるの）ええ……娘さんないし息子さん、この人の子どもがいると考えます。……（この人どんな感じしますか）……ええと最初、その様子を見てとても驚いたように感じています。……だから何かなんでしょうね、窓ガラスがわれたか、何か落したか、へんな出来事が起きてそれで声がかかってとんで来たという……何かあったというふうに考えます。……以上です。

図版6 BM 4” ……ええ、これは息子と母親です。……それで、ええ、父親のことを……2人で思っています。その父親っていうのは、どういうわけ、理由はわかりませんけれども、何かこの2人に心配をあたえるようなことをして、で2人で、そのことを深刻に相談しあっているように見えます。……（お父さんは2人にとって、心配になるわけ）ええ、2人ともなんか父親のことを心配、この女性の人にとっては、あの夫であり、この男の人にとっては父親である人のことを何か深刻

そうに考えているという場面で……で母親はもうあきらめて途方に暮れていて、で息子の方はまだそうあきらめないで、いろいろ母親を説得しようとか方針をたてようとかしています。……（何かあったのかな、お父さんに）多分、病い、病気か、それとも、行くえ不明か……ええ、そういった感じに思われます。……（心配ですね）ええ……以上です。

図版7 BM 4” これは恩師とその弟子で、それで、2人で意見が対立していたんですけども……ええ、結局のところ弟子の方がやはり恩師の方の意見に従うようになって、それで……まあ弟子はいやいやながらも、それに従っている感じです。で恩師の方はその通りになったので、「ヨシヨシ」というふうになぐさめているのですが、なぐさめながらも優越感にひたっているというふうに（この恩師の方が）先生の方が、……そのように見うけられます。……（どんな感じの先生なんでしょうか、先生の雰囲気とか）多分おそらく大学の教授という感じで、とても温厚そうな感じに見うけられます。……（弟子はどういう感じですか）弟子は野心にもえていて、そして、まだ若いのでこう自分の意見を通そうという闘志みたいな若さが感じられます。それに対して、この自分のついている方の先生の方が、「そうではない」と言いきかせていて、しぶしぶながら弟子の方は従っている。でもやはり、自分の信念はかえていないように思えます。

図版8 BM 3” あ、これは、まず、こちらのクッキリしている人が、ええ、医者だとします。……それで、ええと、この後にある背景は、その人が想像しているものだと考えます。それで、ええ、自分のやった過去のいろんな治療について考えていた、いるところですよ。……で、あのとき、ああして、ここにいる多分おそらく、ここにライフルのようなものがありますから、戦場で、なんか弾丸かなんかの摘出をしていて、そのことを思い返しているのだと思います。で結局、この人が助かって自分は人を助けたのだというふうに、いい気分にひたっている、そういう場面にいる。……（昔そうやって人を助けたことを思いだしているわけね）はい、はい……。

図版9 BM 5” ……ええ、これはやはり何かの戦場で、それで、その戦士たちが休息をとっている場面です。それで、これからまた何かすごい大戦地へ行くの

で、みんな休息をとって、これからさあ行こうといった状態に見うけられます。（これでまた戦争に行くわけね）ええ（戦場に）ええ戦場に向かってでかけていなくては……（どんな感じの兵隊たちですか）あの、質実剛健なものすごい野武士のような……感じの兵隊です……以上です。

図版10 5” ……あ、これは……カップルです。それで2人が長い間おたがいの気持ちになかなかわかんなかったところ、やっと気持ちが通じ合えて、それで今、2人の、で、結び、今結ばれたといった状態です。で2人は、非常に喜ばしく、ええ、もうメルヘンの世界に入っちゃっている感じです。（長い間通じ合えなかったわけね）ええ長い間何か支障があったか、それとも2人がどちらか言いそびれたかして……何かそういった難局をのりこえて、やっと結ばれた。だから、ほっとしたと同時に、これからさあ幸せにという……前向きの姿勢が感じられます。……（これから幸せになるんだという感じね）ええ……以上です。（このこちらの人はどういう感じ、下の）下の女性はもう喜びの感極まった状態におもわれます。（上の方は）上の方の人は、やはりもう喜びと同時に、これから男ですからやっぱり彼女を幸せにしてやってやろうという、……気力に満ちているように思われます。

図版11 15” ……あ、これは……何か深い山奥の場面で、何人かで前人未踏の地へのりこもうとががんばっているところのように思われます。……それで、これからも、この場面はすごいおそらく、かなりの風もあって、で、そのたどりつくまでには、まだまだこれから難局がありますけれども、それをのりこえて、前人未踏の地へと向かって行くというふうに思われます……（何人かで行くのね）（どういう連中なのですか）1人があるおそらく宗教の、私の場合は多分キリスト教の人たちに思われます。それで1人が神父とか司祭という人で、その他がその弟子たちで、それで、みんなで神のおつげがあったということで、その地へ行こうといって行くわけ……（おつげに従って）はい、……（どうですか将来のことは）は、あのかなり苦しいですけども、ええ、達成されて神の恩寵をたまわることになると思います……。

図版12 M 17” ……まず、この寝ている人は、ええ……何か多分精神的に疲れてまいって寝ているというふうに見えます。で、え、手をむけているこの老人は、何か

そうですね、この人の父であり、それで、そのなぐさめに来てやっているという状態です。でこの青年は命はたちなあって、がんばってやっていくというふうに思われます。……（お父さんは何しているの）……は、手をかけてやって、いろいろとことばをかけてやっているというように思われます……。あと話はかわりますが、また別な今度は、こちらが精神心理学者の人であり、それでここに寝ている人は、ま、その患者とか相談しに来た人、クランケといった人で、それでその人に対して催眠療法を行っているという状態にみうけられます。……先は、どうなるか分かりません。

図版13 MF 5” …これは寝ている人は娼婦です。それから起き上がった人は、そのパトロンですね。……それで、これは朝です。で、一夜をむかえた、おわりまして、朝をむかえて、女性の方は別段何もすることなく寝たままで、男の人は服に着がえて、ま、ねむいながらもねむ気をこすりながらも、これから勤めに、ないしは、自分の家庭に行くといったように思われます。……で、別段 2 人の間もクールなものであり、ただの遊びといった感じに思われます。……（この女性はどういう感じの方ですか）は、もう、そうですね……とても合理的な打算的なそういうふうな女性で、もう、人生的にはもう退廃してしまっているような女性に思われます。……もう、どうにもなれといったような……（自暴自棄みたいな）はい……ただ金という物にしか興味がなく、心はさめきってしまっているような女性に思われます。（こっちの男の人は）こっちの男性は、要するに自分のストレスの解消のためにこの女性を買ったというような、そういうふうに思われます。……でごく一般的な、まあ、前日勤めがあったたまたま外部でこの女性と知り合って、こういう状態になったというふうに思われます。

図版14 4” …これはおそらく……何か疲れはてて、そして窓を開けて外を見て、心をなごませているといったように思われます。……たまたしくは、あるところに閉じこめられていた男の人が自力で出口を探しだして、で、そこから脱出していくといった。で、結局それが成功してこの男の人は自由な世界に入っていくという感じがします。……（脱出できる感じなのね）はい……この瞬間は「ヤッタ！ ヤッタゾ」という喜び、そういう……以上です。

図版15 2” …これ、まず墓地です。……それで、これ

は多分友人か何かの墓地に参りにきた年老いた老人に考えます。で、昔の既知だった友人が亡くなって、そのことが、その亡くなったのもずっと以前のことなのだけでも、その人がやはり忘れられずに訪ねてきて、お祈りをしているというふうに見うけられます。……で、祈りがすむと、また老人はどことしれず立ち去っていくといった感じです。……以上です。（年よりなのね）はい……。図版16（白紙図版用の教示をする） 6” ……ええ、ひろーい地平線の見えるような原野で、それでそこは緑の青草が青々とはえていて、それで木は別にありません。それで、非常に天候は春のような時期であります。でも別に別段花はありません。……それで時間は夕暮どきです。それで要するに空は黄金色であり、自分ひとりそこで私がねそべっているという……で1日が、ここで終りで陽がくれると同時に私は家へと帰って行くといった……（ホッとした感じですね）はい……牧歌的な感じです。……で、人もいず、動物もいない。……（自分ひとりだけ）はい、で夕暮の場面で空は黄金色で、といった感じです。

図版17 BM 4” …これはやはり人は脱出してくるところです。だれかに捕えられたところを自力で出ようと……でロープを使って下に降りていこうとしています。それで今は必死の状態、その先どうなるか分からないといったところです。……（どこから脱出しているの）おそらくビル、これはビルであり、どこか窓からロープをたらして、この男の人が脱出しようとしている。（何かあったのですか）おそらく、この人は捕われていた何か悪辣な連中に捕われていて、そこから脱出しようとしている。……そういった場面です。……で今は必死の状態、で……何しろ逃げようという気持でいっぱい……以上です。

図版18 BM 3” …これは舞台です。で舞台で何か上演していて、この男の人が主演の男性です。それで……もう自分のその舞台の終わった時点で、やはり、それがうまくいって栄光の座を勝ちとってスターとなって、もうその状態に酔いしれているところです。で、まわりからの、この手がかけているのは祝福の、みんなから祝福されているといった状態です。……（大成功ですね）はい大成功をして……以上です。

図版19 11” …これは雪国に思われます。それで、ここはおそらく、磯の、磯の浜の場面であり、その波うち

ぎわであると思われます。……で、空には、なんの種類か分かりませんが、鳥が淋しそうにとんでいて（どれが）この黒いやつが……それから空は暗鈍と曇っていて、で、雪もやはりその磯につもっておりまして、とても冷ややかで、とてももの悲しい情景が思いうかばれます。で、春の到来もまだまだで、もっと厳しい冬になっていく。……（もっと厳しくなる）はい……というふうを考えられます。以上です。（すごく、厳しく、もの悲しい風景なのですね）はい。

図版20 3” ……ああ、これは張り込んでいる刑事の男の人だと思います。でもう、いく晩もいく晩も張り込んでいて、いかげんに嫌気がさしてきているところなんですけども……この執念というものはすごいもので……ええ、絶対に、その犯人をつかまえてやろうとか、証拠を見つけてやろうという闘志にもえていて、でこの人物はもの静かながらも非常にもうなんというか執拗な人物に思われます。……で結局のところは、自分のその追いつめていった人物をつかまえるなり証拠をとるなりして、後は自分の所轄の署へ帰っていくというように思われます。（つかまえるわけね）はい……時期的には、これはやはり寒い冬です。でも寒さにもたえるくらいの非常に忍耐力の強い刑事だと考えます。……。

### 3. 各観点からの事例理解

まず、各図版毎に借り物 cliché（戸川, 1959）<sup>(10)</sup>との識別を行い、それをもとに、かわり分析、要求－圧力分析を行った。次に、DMMとSCORSによる分析を行った。なお、CCRT法による分析結果は、図版全体にわたるため次項に示した。

図版1 ええ、母親にバイオリンを弾けといわれて（p 支配）、ええ、いやがっています。でも、しかたがないから、ええ、弾こうか弾くまいか思っています。それで……結局は自分で練習をはじめます（n 理知、敬服－Cf－圧力排除、n 屈従）。……それでおい……おわりです。……（何か他にありますか）……後は、あ、バイオリンを弾いていて難しい場面につづかって（p 挫折）、ええ、どうしたらいいかと自分であれこれ考えて、考えて創意工夫していると思われます（n 理知）。（うん）

……（どうしたらいいかな……）で、だれかに手ほどきをもっと受けたい（n 援助）という気持ちです。……あとは、何か曲を作りたくて（n 達成）、それで、これからどういうふう曲を作っていこうかって考えている（n 理知）ところです。で、結局のところ、何も思いうかばず（p 挫折）に終わってしまうと、で、いやで（n 圧力排除）やめしてしまうと、やめちゃう（やめちゃうのね）……以上です。

借り物との識別；難しい場面につづかって、創意工夫して。誰かに手ほどきを受けたい（図版にない人物の導入）。曲を作りたい。

かわり分析；母親にバイオリンを弾けと言われ押しつけられ、おしつけがましいお母さん。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
母親	p 支配 p 挫折(内的圧力)	嫌がっている。弾こうか弾くまいか、練習を始める(n 圧力排除－Cf－理知、敬服、n 屈従)。創意工夫(n 理知)、手ほどきしてほしい(n 援助)、曲を作りたい(n 達成)、どういうふうにつづいていこうか(n 理知)、いやで(n 圧力排除)やめしまう(結末)

要点；母親像は支配的で、主人公は圧力に抵抗するが、考えて結局は服従する。支配的な母親との葛藤状態は、意に沿わないことをすることで解消される。さらに今度は自分から達成しようと取り組もうとする。しかし、困難にぶつかり、いやになり、やめてしまう。

防衛機制；否定（弾けと言われて、嫌がり、弾こうか弾くまいか迷うが、結局、練習を始める）→母親への同一化（弾けと言われて、練習を始める）→逆転（嫌がっていたのに、創意工夫しようとする＋手ほどきを受けたい）→否認不全（いやでやめてしまう）

母親の支配強制を認めると生じる苦痛を否定し、

一方、親から与えられる行動統制を内在化する。否定に加えて、さらに苦痛とは反対のものに置き換えようとしたが、苦痛の否認に失敗し、最終的に母親の支配強制を拒否する。内在化された親と反抗する自我との葛藤。

SCORS ;

人の表象の複雑性 水準2 (自他の分化はあるが、母親の内的動機には焦点付けられない)

情調 水準3 (否定的な目を通して見られるが、「手ほどきしてほしい」のように人は養育的なものとして描かれる)

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準3 (人を喜ばず動機、好かれることの動機が描かれるが、関係性の特質は深くない)

社会的因果関係の理解 水準2 (母親の支配強制を理解し練習しようという、他者の意図へのかろうじての理解はある)

図版2 5" …学校帰りの学生の女性が、ええ、だれかを待っているところです。でなかなか来ない (p 支持喪失) のですけど。ええ、別にイライラすることもなく待っている。それで……来る相手の人は、自分のフィアンセぐらいの人で、むしろ、あの、心がワクワクしているほうです (n 異性的親和)。で、その相手の人というのは、結局来て、そして、その場を2人で去って行ったように見えるように思えます。(どれがフィアンセ) え、これから来て、別にここに登場していない。……その人が来て2人で楽しそうにこの場から行ってしまうと、そう見えます。……(その人のこと) ええ、この女の人……こっちは関係ない……(ハイ) ……(こっちの人は関係ないの) ただ背景です。(はい、はい)

借り物との識別; イライラすることもなく(待っている)。フィアンセ(図版にない人物)。ワクワクしている。前景と背景の分離遮断。

かわり分析; 大人の2人をカットして背景にして、若者の世界だけを作る。絵の中の2人の人物

を背景にした。2人の人物を入れるとめんどくさくなる。(家の中でお父さんとお母さんがしゃべりいかないうちで、あなた1人がなんとか自分を安定させるために自分の城を一所懸命に作ってきたような感じ。お母さんはお父さんのグチを言う。まきこまれないよう、自分1人で歩ける自分にしよう。面接の中でイメージが湧いてきた。)

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
フィアンセ	p支持喪失	だれかを待つ。ワクワクしている(n異性的親和)、結局来て、2人で楽しそうにこの場から行く。

要点; 異性関係では、親和的な愛情を持ち、一時、支持を失いかけるが、うまくいく。図版1では母親との葛藤状態があったが、図版2では異性との間では葛藤はなく、非常に楽観的な結末となっている。この図版は、一般に女性が主人公になることが多いが、女性に同一視しているかは不明である。脇役(男性)に同一視しているなら、女性を待たせたい、女性に待っていてほしいことになる。

防衛機制; 否定(イライラすることもなく待つ) → 逆転(むしろ、心がワクワクしている) → 予想外の楽観論? (楽しそうにこの場から行く)。同一化; 役割分化(フィアンセ)

フィアンセが来ないイライラ・苦痛を否定し、さらにイライラ・苦痛とは反対のものに置き換え、楽しい場面にして終わらせた。否認の成功。

SCORS ;

人の表象の複雑性 水準2 (自他の分化はあるが、フィアンセの内的動機には焦点付けられない)

情調 水準3 (否定的な目を通して見られるが、人は愛すべきものとして描かれる)

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準3 (他者を手段と見るか相互的なものと見るか、他者との関係性は価値はあるものの表面的である)



社会的因果関係の理解 水準2（フィアンセもワクワクしているであろうという、また、2人で楽しそうにこの場から行くというような、他者の意図へのかろうじての理解はある）

図版3 BM 5” ……酔い……お酒を飲んで酔いつぶれて（p 身体不全）しまつて意識モウロウとして（p 心的不全）しまつて……泥酔状態になっているところで……で、自分でもう自分のことが分らない（p 心的不全）……といった状態です。……それで、この後どうなるのかっていうのは、ただお酒のさめたころ目をさまして……それで1人でトボトボと家路に向かって行く（n 援助？）……というふうに考えます。（どこで泥酔しているわけなの）……ああ、なんとなく、この絵のベンチで……これが後にある、椅子のようなのが、ベンチに見えまして、で、ここが街路のように見えまして、そこで、うつぶしているという状態が……そのようにみうけられます。……で以上です。（何歳くらいの人ですか）そうね……25, 6歳の女性に思われます。……（女性なのね）はい……。

借り物との識別；うつ状態とか悲劇的な状況ではなく、泥酔状態。一人でトボトボ、家路に向かって行く。「ピストル様のもの」は取り入れられていない。

かわり分析；泥酔状態の26歳の女の人。トボトボと家路に帰る。（C44：これは1回自分でも経験したことがあるんです。……そのことも頭に残っていたものですから……ベンチでふせている状態からパッとこう浮かんだ）

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
	p 身体不全, p 心的不全(内的圧力)	1人でトボトボ家に帰る(n 援助?)。ベンチでうつぶしている。

要点；泥酔して身体的にも心的にも不全になり、目が覚めると孤独な状態になる。家は助けになる

のか不明である。図版3は画中の人物に悲嘆・苦悩を見る人が多いが、泥酔により一時的に意識を失わせる点が注目される。しかし、結局は孤独な世界に入り、図版2のように異性との関係にも期待が持てないかのようなのである。他者との関係性を放棄し、圧力ー欲求の図式が成立しないのが特徴的である。主人公は女性であり、女性への同一視は同性愛的傾向が示唆される見解があり念頭に置いておく。

防衛機制；否定的な感情を否認していたが不全に終わる（一人でトボトボ帰る）

酒で「一人でトボトボ帰る」ような孤独感を否認していたが、現実には再び直面してしまう。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準2（「一人でトボトボ」のように他者の存在は想定され、他者の分化はかろうじてある）

情調 水準2（世界は敵意があり、空虚で、距離があり、孤独であるが、圧倒的ではない。孤独や見捨てられの深い感覚がある。）

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準1（他者への関心はまったくなく、主に自分自身の満足に関心がある）

社会的因果関係の理解 水準1（人の感情・行動・思考が対人的状況に関連があると理解する必要があるように見えない）

図版4 2” …え、これは、ええ、まず、この2人は夫婦です。それで夫が、これから戦場へ向かう（n 攻撃）としているところを妻がひきとめようと（p 支配）しています。でも、それを振りきって（n 圧力排除）夫は行ってしまおうっていうふうに……それで妻は、心配してなんとか引きとめようとするんですけど、戦わなくちゃいけないと言って、男の人は出て行こうというふうに見うけられます。で、結局のところ、無事にこの男の人は、また帰ってきて、幸福にまた2人で暮していきます。（無事に帰ってくるのね）それで暮していくというふうに思われます ……。以上です。

借り物との識別；戦いに行く男とそれを止どめる女の物語はよくパターンである。戦場に行った話が、何の曲折も語られずに、無事に帰り幸福になる。夫婦は対立的な別離にも関わらず、葛藤もなく再結合する。背後の性的な絵は言及されない。

かかわり分析；女の人と男の人が2人でいて、男の人が戦場に行って戦わねばならない。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、 行動および結末
妻	p支配	戦場へ向かおうと(n攻撃), 振り切って(n圧力排除), 無 事に帰り幸福に2人で暮ら す。

要点；図版3で関わりを放棄した孤独な状況に陥ったが、図版1のように女性に支配される関係性が再度出現している。しかし、図版1ではn圧力排除-Cf-敬服の葛藤状態の結果はn屈従であったが、ここでは圧力排除した。図版4では、基本的に女性関係では女性が支配的で、圧力排除-屈従の葛藤がありそうである。結末はあまりに楽観的で非現実的である。

防衛機制；自分である状況を作りながらそれを完全に否定する（戦場に行く話など何もなかったかのような否定）。投影；不吉な特性の不可（戦場）。同一化；役割分化（夫婦関係），行動の統制（妻が夫をひきとめようとする）。

戦場へ向かおうとする夫を妻が必死に止めようとする葛藤があるのに、何事もなかったかのように再び幸福になる。夫の戦地での困難，妻の戦後の苦痛などへの言及もまったくない。否認されている。同一化を巡る葛藤（統制する人物・夫と統制される人物・妻との葛藤）。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準3（夫は「行ってしまう」、妻は「心配して」のように、主観的心理状

態について、初歩的で単次元の推論を示す）

情調 水準3（世界は否定的な目を通して見られるが、人は愛すべきものとして描かれる）

情緒的充当の能力と道徳的規準 水準3（関係性の全体的特質は深くはないが、関係性は価値があるとされる）

社会的因果関係の理解 水準2（他者の行動の意図を理解する上で、基本的で初歩的な社会的場面での因果的帰属を示すことができる）

図版5 6” …ええ、ここはこの御婦人の娘さんか誰かの部屋で……それで、その人が呼んで「どうしたの」とドアを開けて入ってきた（n養育）場面です。……でそれで、用、その言つてとか用が終わって、まあこの人はごく普通に御自分の部屋にもどっていってしまうというふうを考えます。（こっちは誰がいるの）ええ……娘さんないし息子さん、この人の子どもがいると考えます。……（この人どんな感じしますか）……ええと最初、その様子を見てとても驚いたように感じています。……だから何かなんでしょうね、窓ガラスが割れたか、何か落したか、へんな出来事が起きて（p災害）それで声がかかって（p援助）とんで来たという……何かあったというふうを考えます。……以上です。

借り物との識別；来室の動機と室内での予想外の出来事の両方に焦点を当てた点は特徴的である。「用が終わって、ごく普通に自分の部屋に戻る。子どもがいる」から、「様子を見て驚く。窓ガラスが割れたか、何か落としたか、へんな出来事。声がかかって、とんで来た」のように展開する。

かかわり分析；母親的な人がもってまわった言い方。娘さんとお母さんの関係がちぐはぐさを感じさせる。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、 行動および結末
子ども	p 援助 p 災害（環境的圧力）	「どうしたの」とドアを開けて入る（n 養育）。言づてとか用が終わる。子供がいる。声がかかって（n 援助）その様子を見て驚く。

要点；母親の動機への焦点付けから予想外の出来事に移り、子どもの援助要請で母親が来室した話に作り直された。主人公は「母親」であるが、同一視はないと考えられる。むしろ図版1、4との関連で見ると、養育的な母親像が語られている。子供からの援助要請に対して養育で応じる母親像がさりげなく出ている。逆に、母親が養育的なもので、子供も依存的になるとも言えよう。図版1では母親が支配的で圧力排除－屈従の葛藤があったが、ここでは葛藤以前の養育－敬服の母子関係に戻り、支配的母親像からの自立を巡る葛藤から図版3の孤立無援の状況を経て、退行したように見える。

防衛機制；「ごく普通－変な出来事」への逆転。「支配的侵入的母親－依存対象としての母親」への逆転。投影；不吉な特性の付加（窓ガラスが割れる、変な出来事が起きる）。

何事もなく普通に用を終わらせた話から、急に、何事かが起きた話になる。養育的支配的な母親は普通であるが、救護の対象としての母親が登場する。投影が2つ続く。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準3（自他の分化に加え、主観的心理状態について、初歩的で単一次元の推論を示す）

情調 水準3（世界は否定的な目を通して見られるが、人は愛すべき、世話をし、養育的なものとして描かれる）

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準2（潜在的に自分と他者の要求の葛藤の感じを示すが、究極のテーマは自己奉仕的な動機や自己の要求の追及

である。愛着はできるが、関係性は自己中心的な特質を示唆する）

社会的因果関係の理解 水準2（他者の行動の意図を理解する上で、基本的に初歩的な社会的場面での因果的帰属を示すことができる）

図版6 BM 4” ……ええ、これは息子と母親です。……それで、ええ、父親のことを……2人で思っています。その父親っていうのは、どういうわけ、理由はわかりませんけれども、何かこの2人に心配をあたえるようなことをして（p 不幸）いて、で2人で、そのことを深刻に相談しあっている（n 援助、理知）ように見えます。……（お父さんは2人にとって、心配になるわけ）ええ、2人ともなんか父親のことを心配（n 養育）、この女性の人にとっては、あの夫であり、この男の人にとっては父親である人のことを何か深刻そうに考えているという場面……で母親はもうあきらめて途方に暮れていて（p 拒否）、で息子の方はまだそうあきらめないで、いろいろ母親を説得しよう（n 支配）とか方針をたてようとかしています。……（何かあったのかな、お父さんに）多分、病い、病気か、それとも、行くえ不明か（p 不幸）……ええ、そういった感じに思われます。……（心配ですね）ええ……以上です。

借り物との識別；息子と母親が父親の安否を相談しあう設定は稀ではないが、母は諦めるが、息子は諦めない点の特徴的である。父親の導入。父親が病気か行方不明。「この女性の人にとっては、あの夫であり、この男の人にとっては父親である人」という認知・表現は特異である。

かわり分析；女性にとっては夫であり、その男の人にとっては父親であるという言い方。お母さんはもうお父さんのことをあきらめて途方にくれている。息子はまだあきらめていない。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態, 行動および結末
母親	p拒否	母に相談する(n援助, 理知)。 諦めない。母を説得する(n支配)。
父親	p不幸; 環境的圧力	父のことを深刻そうに考える(n理知), 父を心配する(n養育)

要点; 主人公の母親, 父親との関係性が明瞭に示される。主人公は母に援助を求め, 拒否されるがなおも説得しようとする。母は(父を)諦める設定であるが, 父=被検者で母に見捨てられる子のようなのである。母は養育的であるが, 被検者が自立になると支配的に止めようとし, 彼が自立を求め圧力を排除しようとするを見捨ててしまうような関係性があると推測される。一方, 父は不幸に見舞われるが, 彼は考えて援助しようとする。彼にとって父親は良い対象のようであるが, 「行方不明」となっている。

防衛機制; 投影 (行方不明)

父親を行方不明にすることで内的な攻撃性を投影している可能性がある。

SCORS ;

人の表象の複雑性 水準2 (自他の分化はあるが, 父母の内的動機には焦点付けられない)

情調 水準3 (否定的な目を通して見られるが, 父親を心配するとか母は相談できる対象として描かれる)

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準3 (他者と意味ある豊かな関係性を形成, 保持しようとするほどには, 関係性の特質は深くない)

社会的因果関係の理解 水準2 (母が諦めるので翻意しようというように, 他者の意図へのかろうじての理解はある)

図版7 BM 4'' これは恩師とその弟子で, それで, 2人で意見が対立していたんですけども……ええ, 結局のところ弟子の方がやはり恩師の方の意見に従う (n敬服) ようになって, それで…

…まあ弟子はいいやいやながらも (n圧力排除), それに従っている (n屈従) 感じです。で恩師の方はその通りになったので, 「ヨシヨシ」というふうになぐさめている (p養育) のでしょうが, なぐさめながらも優越感にひたっているというふうに (この恩師の方が) 先生の方が, ……そのように見うけられます。…… (どんな感じの先生なんでしょうか, 先生の雰囲気とか) 多分おそらく大学の教授という感じで, とても温厚そうな感じに見うけられます。…… (弟子はどういう感じですか) 弟子は野心にもえて (n達成) いて, そして, まだ若いのでこう自分の意見を通そうという闘志 (n攻撃: 社会的) みたいな若さが感じられます。それに対して, この自分のついている方の先生の方が, 「そうではない」と言いきかせていて (p支配), しゅしぶながら弟子の方は従っている。でもやはり, 自分の信念はかえていない (n圧力排除) ように思えます。

借り物との識別; 権威像, 男性性に特徴がある。権威像は, 「温厚そう」だが弟子を従わせる強さを持ち, しかも弟子を慰め, そのことに優越感を感じるような人物。男性像は, 野心的で信念は変えない強さを持つが, 不本意ながらも表面的には従う。

かわり分析; 恩師と弟子の関係, 大学の教授と意見が対立。弟子は自分の意見がありながら結局は折れる。先生はなぐさめながら優越感にひたる。父と息子の関係 (T44: そういうところは図版7 BMの弟子の感じもそうですね。ぶつかるってひっこめて折れた形になって, 自分は本当はまげていないけど一応ひっこんじょう。)

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態, 行動および結末
恩師	p支配, p養育	恩師の意見にいやいやながらも従う(n敬服-Cf-圧力排除, n屈従)。野心に燃えて(n達成), 自分の意見を通そうと闘志(n攻撃)。

要点；ここでは父親的な対象の支配に、敬服と圧力排除の葛藤の結果、屈従する。しかし、庇護的な環境の中で、野心に燃え自己主張を期すところで終わる。これまで、達成についての記述は図版1にしかなく、しかも困難にぶつかりやめてしまう結末である。ここでは結末は未定である。父母いずれにしても、支配的、養育的な圧力を示し、権威的、支配的な対象に葛藤はするものの結局は屈従してしまう関係性にある。ただし、父親像に対しては攻撃性（図版7「闘志」、図版6「行方不明」）を出せるのかもしれない。自立へ向けての野心はあるが、達成した自己像を描けない。

防衛機制；恩師の意見に従うという同一化（行動の統制）、従いながら信念は変えないという否認（逆転）。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準3（自他の分化と、主観的心理状態についての初歩的な推論がある）

情調 水準3（否定的な目を通して見られるが、恩師は養育的なものとして描かれる）

情緒的充当の能力と道徳的規準 水準3（人を喜ばず動機、好かれることの動機が描かれるが、関係性の特質は深くない）

社会的因果関係の理解 水準3（恩師の行動について、優越感を感じたいからという因果関係の理解はある）

図版8 BM 3” あ、これは、まず、こちらのクッキリしている人が、ええ、医者だとします。……それで、ええと、この後にある背景は、その人が想像しているものだと考えます。それで、ええ、自分のやった過去のいろんな治療について考えていた（n 無活動）、いるところです。……で、あのとき、ああして、ここにいる多分おそらく、ここにライフルのようなものがありますから、戦場で、なんか弾丸かなんかの摘出をしていて（n 達成）、そのことを思い返しているのだと思います。で結局、この人が助かって自分は人を助けた

（n 援助）のだなというふうに、いい気分にはたっている（n 無活動、官能）、そういう場面にいる。……（昔そうやって人を助けたことを思いだしているわけね）はい、はい……。

借り物との識別；医学を目指す青年の決意・野心を述べる展開はありえる発想であるが、過去の回想とし、かつ「自分は人を助けたのだなというふうに、いい気分にはたっている」というように自己愛的な点が特徴的である。

かわり分析；医師がいて背景が想像で、銃かなんかあり、手術しているような、弾丸を摘出している。戦場。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
人	弾丸(p 援助)	考えていた(n 無活動)。弾丸なんかの摘出をして(n 達成)、助けた(n 援助)。いい気分にはたっている(n 無活動、官能)。

要点；主人公は医者であり、手術を成し遂げ命を救ったという回想にふけり、良い気分には浸っている。手術の設定はよくあるが、手術される人の苦悩、手術する側の野心やためらいへの言及がない。図版7で、自立への野心はあるものの達成した自己像を描けず、かつ「なぐさめながらも優越感にはたっている」恩師（父親）像を描いている。図版8では、何の努力もせずに達成し、その優越感に浸る。優越感に浸るのみで「病氣ないし行方不明」で「達成できない」力がない父親に同一化していることが推測される。

防衛機制；医者という職業に同一化して、手術の成功に浸る白昼夢を見て現実否認する。この図版で喚起されやすい攻撃性は中和され、否認されている。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準3（自他の分化はあり、

主人公の心理状態について深みにかめるものの推論する傾向を示す)

情調 水準4 (命を助けることが価値あることとして描かれるが、中立的で面白みにかける)

情緒的充当の能力と道徳的規準 水準3 (人を喜ばす動機、好かれることの動機が描かれるが、関係性の特質は深くない)

社会的因果関係の理解 水準3 (人を助けるという弾丸摘出の動機は述べられるが、心理学的理由としては深みがない)

図版9 BM 5" …ええ、これはやはり何かの戦場で、それで、その戦士たちが休息をとっている (n 無活動) 場面です。それで、これからまた何かすごい大戦地 (p 攻撃) へ行く (n 攻撃: 社会的) ので、みんな休息をとって、これからさあ行こうといった状態に見うけられます。(これでまた戦争に行くわけね) ええ (戦場に) ええ戦場に向かってでかけていなくては…… (どんな感じの兵隊たちですか) あ、質実剛健なものすごい野武士のような……感じの兵隊です……以上です。

借り物との識別; 任務遂行の合間 (後) の休息はよくあるパターンである。しかし、「すごい大戦地へ行く」「さあ行こうといった状態」「質実剛健なものすごい野武士」という設定に特徴がある。

かわり分析; 戦士たちが休息している。これから大戦地に行く野武士のような。これも戦争

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
戦地	大戦地(p 攻撃)	休息を取っている(n 無活動)。すごい大戦地へ行く(n 攻撃)。

要点; 大戦地という圧力を感じつつも、その前にまず休息を取り、次に攻撃へ向かう。ここでもすぐに休息を取り回避的で、遂行・達成は今後のことになっているが、とにかく緊張感を持って目前

の達成に向かうポジションに戻れたと言えよう。また、被検者は男性的な仲間集団に同一化しようとしている。

防衛機制; 野武士集団に同一化し、また、野武士への攻撃的感情の帰属、すなわち投影をしつつ、戦地からの状況の回避という一時的な現実否認をする。

SCORS ;

人の表象の複雑性 水準1 (自他は明確には分化されていない)

情調 水準2 (世界は敵意に満ちているが、破壊的には描かれていない)

情緒的充当の能力と道徳的規準 水準3 (社会的規範に合致した行動が描かれる。関係性の特質は深くない)

社会的因果関係の理解 水準3 (戦地へ向かうために休息をするというように、他者の意図へのかろうじての理解はある)

図版10 5" …あ、これは……カップルです。それで2人が長い間おたがいの気持ちがなかなかわかんなかった (p 拒否) ところ、やっと気持ちが通じ合えて (n 親和: 異性の親和)、それで今、2人の、で、結び、今結ばれたといった状態です。で2人は、非常に喜ばしく、ええ、もうメルヘンの世界に入っちゃっている (n 官能) 感じです。(長い間通じ合えなかったわけね) ええ長い間何か支障があった (p 運命: 不運) か、それとも2人がどちらか言いそびれたかして……何かそういった難局をのりこえて、やっと結ばれた。だから、ほっとしたと同時に、これからさあ幸せという……前向きの姿勢が感じられます。……(これから幸せになるんだという感じね) ええ……以上です。(このこちらの人はどういう感じ、下の) 下の女性はまだ喜びの感極まった状態 (n 官能) におもわれます。(上の方は) 上の方の人は、やはりもう喜びと同時に、これから男ですからやっぱり彼女を幸せにさせてやってやろう (n 親和、援助) という、……気力に満ちているように

思われます。

借り物との識別；悲しみが背景にある抱擁はよくあるパターンである。男女関係には「難局」があるが、「やっと気持ちが通じ合えて・・・メルヘンに入っている」。難局とは「気持ちが分からない」「言いそびれる」感じ。「さあ、これから幸せに」という前向きの姿勢。女性の喜びは「感極まった状態」。男性も「氣力に満ちている」。

かわり分析；カップルの話。難局をのりこえて出会った。カップルでおたがいに気持ちが分からなくて、やっと気持ちが通じてすごく嬉しい。おたがいにほんとうに気持ちが分かるまで時間がかかって難局をのりこえた感じ。言いそびれて言えない、気持ちの通じ合い、自分の世界と相手の世界とが通じ合うのに大変なんだなという感じ。嬉ばしいメルヘンの世界。カップルの気持ち、出会おうとする。

脇役	脇役よりの圧力	主人公の感情状態、行動および結末
女性	p拒否 p運命(環境的圧力)	やっと気持ちが通じ合えて(n親和:異性的親和)。結ばれて、メルヘンの世界に(n官能)。前向きの姿勢。幸せにしてやろう(n親和、援助)。

要点；女性とは行き違いで拒否され、あるいは運命的の支障があり、結ばれない。しかし、異性と親和的になろうとし、幸せにしようという親和と援助の動機付けがある。異性関係では、親和的な愛情を持ち、一時、支持を失いかけるが、うまくいく。図版4と同様に女性像は否定的であるが、図版2、4のようにここでも非常に楽観的な結末であり、異性関係についての理想像が語られている。「病氣・行方不明」となる弱い父親像に対して、女性を幸福にする強い男性像を語り、エディパルなビクトリーの願望があると思われる。

防衛機制；メルヘンの世界という過度に理想化された世界、喜びで感極まるという予想外の楽観論(否認)。

SCORS；

人の表象の複雑性 水準3（自他の分化はあるが、心理状態についての初歩的な推論）

情調 水準3（否定的な目を通して見られるが、人は愛すべき養育的なものとして描かれる）

情緒的充当の能力と道徳的規準 水準3（人を喜ばす動機、好かれることの動機が描かれるが、関係性の特質は深くない）

社会的因果関係の理解 水準3（何らかの理由で結ばれないという社会的状況の因果的理解、あるいは「男だから彼女を幸せにしてやろう」という単純な理由付け）

### 3. 各観点からの事例理解のまとめ

ここで、上述の、要求－圧力分析、かわり分析、防衛機制マニュアル、社会的認知と対象関係尺度による各図版の理解に加え、中核葛藤関係テーマ法の観点から見た事例理解を含め、以下に各観点からの総合的解釈を示す。

#### ＜欲求－圧力分析＞

母親との関係では2つのパターンが示される。母親が支配的なため圧力排除－屈従の葛藤を持つか、あるいは、葛藤以前の養育－敬服の母子関係かである。父親との関係も2つのパターンが見られる。クライアントにとって良い対象であるが影の薄い希薄な存在であるか、あるいは敬服－圧力排除の葛藤の末に屈従する支配的な父親かである。

また、クライアントにとっては、養育的、支配的な母親像と、母を幸せにすることのできなかつた影の薄い父親像という両親関係が見られる。

一方、自立への野心は見られるものの、困難にぶつかり止めてしまうか、努力もせずに達成して優越感に浸る。従って、自立しようともがきつつ夢想的なレベルでの達成でしかない。主題として、自立しようとする母に見捨てられる不安と、父

親に代わり母を幸せにしようとするエディパルな願望の両方があると考えられる。

### ＜かかわり分析＞

#### 1) 自己像

＊戦場場面、張り込んでいる緊迫した場面。張りつめた、戦おうという、いつも緊張している感じ、緊迫感があるストーリーが多い（図版4、図版9 BM、図版8 BM、図版20、図版11、図版10）、閉じこめられている感じとそれから脱出する共通した行動（図版14、図版17 BM）

＊一人の世界；すごく淋しい、一人の世界、余計なものは一切入れない（図版19、図版16、図版11、図版3 BM）、1人で戦っているが、仲間を求めている（図版11、図版10、図版15、図版18 BM）

#### 2) 両親像

＊母親イメージ；おしつけがましい、娘と母の関係がしっくりこない、冷ややか（C8：ほのぼのとしたところがない。常に前へと戦っていかなくちゃいやな。家庭的な母親ではない）（図版1、図版5、図版6 BM、図版19）

＊父親イメージ；支えてくれる（図版12、図版7 BM）

＊両親との関係；母は父をあきらめ、息子は父をあきらめない。感じ方に違いがある。子どもにとっての父、女性にとっては夫という分け方と似ている（図版6、図版2）

3) 女性との関係；自分の世界と相手の世界とが通じ合うのが大変。通じ合うと喜ばしいメルヘンの世界になる。一方、打算的な女性像。（図版10、図版13 MF、図版16）

### ＜防衛機制＞

否認11（否定3、逆転5、現実回避1、白昼夢1、予想外の楽観論1）

同一化7（役割分化5、行動の統制2）

投影4（不吉な特性の付加4）

否認（否定、逆転、予想外の楽観論）の傾向が強いが、不全に終わることもある。

否定（弾けと言われて、嫌がり、弾こうか弾くまいか迷うが、結局、練習を始める）（イライラすることなく

待つ）（戦場に行く話など何もなかったかのような話になる）

逆転（嫌がっていたのに、創意工夫しようとする+手ほどきを受けたい）（ごく普通－変な出来事）（支配的侵入の母親－依存対象としての母親）（むしろ、心がワクワクしている）

予想外の楽観論？（楽しそうにこの場から行く）（メルヘンの世界という過度に理想化された世界、喜びで感極まるという予想外の楽観論）

否認不全（いやでやめてしまう）（一人でトボトボ帰る）

同一化（役割分化、行動の統制）も見られるが、行動の統制を巡る葛藤がある。

役割分化（フィアンセ）（夫婦関係）（医師）（野武士集団）

行動の統制（母親に弾けと言われて練習を始める）（妻が夫をひきとめようとする）（恩師の意見に従う）

投影（不吉な特性の付加）は少ない。

不吉な特性の付加（窓ガラスが割れる、変な出来事が起きる）（行方不明）

### ＜SCORS＞

人の表象の複雑性 水準1から3で、多くは2ないし3である。

情調 水準2から4で、多くは3である。

情緒的充満の能力と道徳的規準 水準は1から3で、基本的には3である。

社会的因果関係の理解 水準は1から3であるが、基本的には2ないし3である。

つまり、自他の分化はあり他者についての初歩的な推論はできる。また、世界は否定的な目をもって見られるが、養育的なものとしても見られる。関係性は深くはないが、自己中心的傾向は少ない。因果的な見方はできるが、心理学的理由は深みがない。

### ＜CCRT法＞

#### 図版1 #1 母親

母親にバイオリンを弾けと言われて、ええ、いやがっています。・・・どうしたらいいかと自分であれこれ考えて、考えて創意工夫していると思わ



れます・・・だれかに手ほどきをもっと受けたいという気持ちです。・・・何か曲を作りたくて・・・いやでやめてしまうと、やめちゃう

#### 図版 2 #2 フィアンセ

だれかを待っているところです。でなかなか来ない・・・来る相手の人は、自分のフィアンセぐらいの人で、むしろ、あの、心がワクワクしているほうです。で、その相手の人というのは、結局来て、・・・2人で楽しそうにこの場から行ってしまう

#### 図版 4 #3 妻

夫が、これから戦場へ向かおうとしているところを妻がひきとめようとしています。でも、それを振りきって夫は行ってしまおうっていうふうに・・・妻は、心配してなんとか引きとめようとするんですけど、戦わなくちゃいけないと言って、男の人は出て行こうというふうに見うけられます。

#### 図版 5 #4 子ども

ここはこの御婦人の娘さんか誰かの部屋で・・・「どうしたの」とドアを開けて入ってきた場面です。・・・言づてとか用が終わって、まあこの人はごく普通に御自分の部屋にもどっていってしまうというふうに考えます・・・最初、その様子を見てとても驚いたように感じています。・・・窓ガラスがわれたか、何か落したか、へんな出来事が起きてそれで声がかかってとんで来た

#### 図版 6 BM

##### #5 母親

これは息子と母親です・・・2人で、そのことを深刻に相談しあっている・・・母親はもうあきらめて途方に暮れていて、で息子の方はまだそうあきらめないで、いろいろ母親を説得しようとか方針をたてようとしています。

##### #6 父親

・・・何かこの2人に心配をあたえるようなことをしていて・・・2人ともなんか父親のことを心配・・・何か深刻そうに考えているという場面で・・・息子の方はまだそうあきらめないで・・・多分、病い、病気か、それとも、行くえ不明か

#### 図版 7 BM #7 恩師

2人で意見が対立していたんですけど・・・弟子の方がやはり恩師の方の意見に従う・・・恩師の

方はその通りになったので、「ヨシヨシ」というふうになぐさめているのですが、なぐさめながらも優越感にひたっている・・・弟子は野心にもえていて、そして、まだ若いのでこう自分の意見を通そうという闘志みたいな若さを感じられます。それに対して、この自分のついている方の先生の方が、「そうではない」と言いきかせていて、しぶしぶながら弟子の方は従っている。でもやはり、自分の信念はかえていないように思えます。

#### 図版 8 BM #8 患者

医者だとします・・・自分のやった過去のいろんな治療について考えていた・・・戦場で、なんか弾丸かなんかの摘出をしていて、そのことを思い返しているのだと思います。で結局、この人が助かって自分は人を助けたのだなというふうに、いい気分にはたっている

#### 図版 9 BM #9 敵

戦場で・・・すごい大戦地へ行くので、みんな休息をとって、これからさあ行こうといった状態に見うけられます

#### 図版 10 #10 カップルの相手（女性）

2人が長い間おたがいの気持ちになかなかわかんなかったところ、やっと気持ちが通じ合えて、それで今、2人の、で、結び、今結ばれたといった状態です。で2人は、非常に喜ばしく、ええ、もうメルヘンの世界に入っちゃっている感じです。（長い間通じ合えなかったわけね）ええ長い間何か支障があったか、それとも2人がどちらか言いそびれたかしていて・・・何かそういった難局をのりこえて、やっと結ばれた。だから、ほっとしたと同時に、これからさあ幸せにという・・・下の女性はまだ喜びの感極まった状態におもわれます。（上の方は）上の方は人は、やはりもう喜びと同時に、これから男ですからやっぱり彼女を幸せにしてやってやろうという、・・・気力に満ちているように思われます。

図版 No.,対象	願望、要求、意図(W)	対象の反応(RO)	自己の反応(RS)
図版1 #1 母親	いやがる…創意工夫して…だれかに手ほどきをもっと受けて…曲を作りたい	バイオリンを弾けといわれ	いやでやめてしまう
図版1 #2 誰か	だれかに手ほどきをもっと受けて		
図版2 #3 フィアンセ	待っている…心がワクワクしている…2人で楽しそうにこの場から行ってしまおう	来て	楽しそう
図版4 #4 妻	戦場へ向かう	心配してなんとか引きとめようと	戦わなくちゃいけないと言って
図版5 #5 子ども	「どうしたの」とドアを開けて入って	声がかかって	驚いたように感じて
図版6BM #6 母親	深刻に相談しあって…いろいろと母親を説得しようとか	あきらめて途方に暮れて	諦めないで
図版6BM #7 父親	父親のことを心配	心配を与えるようなことをして…病い、病気が、それとも、行くえ不明か	深刻そうに考えて…まだそうあきらめないで
図版7BM #8 恩師	野心にもえて…自分の意見を通そうという闘志	「ヨシヨシ」というふうになぐさめて…優越感にひたって…「そうではない」と言い聞かせて	しぶしぶながら弟子の方は従って…自分の信念はかえていない
図版8BM #9 患者	治療について考えて…思い返して…助けたのだなというふうに、いい気分ひたっている		
図版9BM #10 敵	大戦地へ行くので、みんな休息をとって…さあ行こう		
図版10 #11 カップルの相手(女性)	やっと気持ちが通じ合えて…結ばれた…彼女を幸せにしてやろう	おたがいの気持ちがなかなかわかんなかった(分かってくれない)…喜びの感極まった状態	ほっとした…喜びと同時に…氣力に満ちている

概括的公式化1 (母、妻、恩師)	強く自己主張したい(#1創意工夫、#4戦場へ向かうと、#6説得しよう、#8自分の意見を通そう、#10大戦地へ行く)	支配・拒否される(#1バイオリンを弾けといわれ:無視され命令される、#4引き止められる:受け入れられない、#6あきらめて途方に暮れて:受け入れられない、#8「ヨシヨシ」というふうに…「そうではない」と言い聞かせて:受け入れられない)	服従する(#7しぶしぶながら弟子の方は従って)
		慰められる(#4心配して、#8なぐさめて)	拒否する(#1いやでやめる)
			諦めない(#6諦めないで)
			諦めない(#4戦わなくちゃいけないと言って、#8自分の信念はかえていない)
概括的公式化2 (子ども、父)	心配したい(#5「どうしたの」、#7心配する)	心配をかけられる(#5声がかかって、#7心配を与えるようなことをして)	驚く(#5驚いた)
			心配し続ける(#7まだそうあきらめないで)
概括的公式化3 (敵、患者)	引きこもりたい(#9いい気分ひたっている、#10休息をとって) 外に出たい(#10さあ、行こう)		
概括的公式化4 (異性)	異性とメルヘンの世界に入りたい(#3待っている、2人で楽しそうにこの場から行ってしまおう、#11やっと気持ちが通じ合えて…結ばれた、幸せにしてやろう)	理解されない(#11おたがいの気持ちがなかなかわかんなかった:分かってくれない)	
		非常に喜ぶ(#11喜びの感極まった状態)	安心し氣力がわく(#11ほっとした…喜びと同時に…氣力に満ちている)
概括的公式化5 (誰か)	教えてほしい(#1手ほどきを受けたい)		

概括的公式化 1；強く自己主張したいが、相手に支配・拒否され、服従するか拒否するか諦めない。一方、慰められるが、諦めない。

概括的公式化 2；心配したいと思っているが、心配もかけられる。心配をかけられると、驚きもしたり、心配し続けようと思う。

概括的公式化 3；引きこもりたいが、外に出たい。

概括的公式化 4；異性とメルヘンの世界に入りたいが、理解されない、あるいは非常に喜ばれる。喜ばれると、安心し、気力がわく。

概括的公式化 5；教えてほしい。

(I)」戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫監『TAT』p.180-201 中山書店。

(9) 木村駿 2001 「TAT」上里一郎監『心理アセスメントブック第2版』p.123-139 西村書店。

(10) 戸川行男 1959 「TAT概観」戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫監『TAT』p.2-37 中山書店。

## 引用・参考文献

- (1) 西河正行 2008 Thematic Apperception Test（主題統覚検査）の力動的理解について 大妻女子大学人間関係学部紀要, 10, 95-124.
- (2) 西河正行 2009 Thematic Apperception Test（主題統覚検査）の施行法について－CramerのTAT理論を用いた批判的検討を通して－大妻女子大学人間関係学部紀要, 11, 1-15.
- (3) Cramer, P. 1996 Storytelling, narrative, and the Thematic Apperception Test. New York: Guilford Press.
- (4) 山本和郎 1992 TATかかわり分析－ゆたかな人間関係理解の方法 東京大学出版会.
- (5) 山本和郎 1996 「TAT－かかわり分析法」井村恒郎ほか編『異常心理学講座第2巻 心理テスト』p.95-205 みすず書房.
- (6) 安香宏 1992 「TATの分析・解釈技法をめぐって」安香宏・大塚義孝・村瀬孝雄編『臨床心理学体系第6巻 人格の理解』p.53-88 金子書房.
- (7) 辻悟 1959 「欲求－圧力分析」戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫監『TAT』p.93-126 中山書店.
- (8) 辻悟・藤戸せつ 1959 「事例の分析と解釈